



エピソード

砂山を作っていた A 児は「お山にお花をつけよう」と言って花を摘み、作った砂山につけました。花が増えた砂山を見ると、「これケーキみたい。これはイチゴ。」と砂山をケーキに見立て始めました。

そばで遊んでいた友達も A 児のしていることに気づき、A 児と同じように「これはぶどう、いちご」と花を果物に見立てながら砂山に花をつけました。A 児は引き続き花をつけながら砂山の裏側や下側等花がついていないところに気づき「ここもお花ほしい」と言い自分で取りに行ったり、誰かこっちもつけてと同じ場にいる友達や保育者に伝えたりする姿もありました。

砂山全体がどこから見ても花がついている様子を見て「完成」「ケーキできた」と口々にいい目を合わせて笑い合う姿が見られました。

保育者の思い

☆山がお花一つでケーキに変身!

自然物等の素材、道具等を子どもの周りの環境として準備することで、子どもの遊びは大きく変わりました。素材や遊び環境の大切さを再確認しました。

・初めからケーキに見立てていた A 児と後から来た他の友達。同じことを同じ場でしているように見えても、持っているイメージは異なるかもしれません。保育者が A 児の言葉を拾ったり仲立ちをしたりしながら少しずつ友達と同じイメージを持って遊べたらいいなと思います。

子どもの育ちや学び

イメージの広がり

砂山に花をつけることでケーキに大変身!身近な自然物を使うことで遊びは大きく変わりました。

素材の扱い

草花を摘んだり集めたりするだけでなく、自分なりに果物に見立て、遊びに取り入れる姿がありました。

友達との関わり

花が綺麗についた砂山を見て、同じように遊び出した周りの友達。互いに友達がそばにいることを認識しつつも個別に花をつけていましたが、A 児が「誰かこっちつけて」と言ったことで互いに行っていることを意識したと感じました。

家庭だったら・・・

・大人からすると一見使い終わりのように感じるペットボトルキャップや空き容器。そっと子ども達の遊び場に用意すると、遊びに取り入れるでしょう。

・子ども達の見立てに共感してみてください。きっと子ども達ならではの素敵な発想が見られると思います。